

○若槻 遥水¹⁾, 原田 伸吾¹⁾, 田中 圭介¹⁾

1) デイサービスつむぎ

Keywords: 人間作業モデル, 価値ある作業, 個人的原因帰属

【はじめに】

原因不明の慢性疼痛が影響し、役割を喪失したことによって、個人的原因帰属の低下をきたしているクライアントに対して人間作業モデルに基づいて介入し、価値に焦点を当てた結果個人的原因帰属の改善が見られた。本報告においてご本人に許可を得た。

【事例紹介】

A 氏, 80 歳代男性. 息子家族との 2 世帯住宅. 週 4 回当デイサービス利用. 既往歴は前立腺がん. 脳梗塞. 気管支喘息. 肺気腫. 混合型認知症. 左下肢慢性疼痛. 要介護 2. X 年 Y 月自宅で倒れているところを発見され B 病院に救急搬送, 脳外科入院. 右麻痺, 左脳に散在性新鮮梗塞, 左内頸動脈慢性閉塞あり, 保存的治療となる. 頭蓋内外バイパス術施行し, Y+1 か月後回復期リハに転棟. X+1 年, 膀胱出血に対し, 高圧酸素療法開始. その後回復期リハへ転棟. X+2 年後, 当デイサービス利用となる. A 氏は生業である漁師を辞職後, 自宅の畑で野菜を育て自給自足し, 育てた野菜を近所に配る生活を送っていた. 現在は左下肢の疼痛から遂行困難な状態である. A 氏は近所の知人等の友人交流を大切にしていた. デイサービスでは他利用者と将棋の対局や交流を楽しみ, 好きな演歌歌手の動画を鑑賞している. しかし, 将棋と動画鑑賞以外は消極的で悲観的な発言がある.

【作業療法評価】

- 1) **面接** A 氏のニーズを共有するためにインタビューを実施すると、「左足が良くなったら家の畑に行きたい, でも良くなれない」と思いが聞かれた. また「この先の人生どうなるか分からない」「この足では何もできない」と個人的原因帰属の低下を思わせる発言があり, 表情も暗かった. 畑への想いを聴取すると, 収穫した野菜を家で食べるだけでなく, 近所に配り, 「ありがとうや美味しかったと言われることが嬉しかった」「誰かの為に何かすることは嬉しい」と語り, 他者貢献できることが A 氏の喜びであり価値だと明らかになった.
- 2) **身体機能** ROM は左股・膝関節に中等度の屈曲制限あり. 筋力は左下肢中等度の筋力低下あり. 右下肢表在・深部覚異常なし.

【介入】

日々の生活で A 氏の価値を満たす作業がないことが明らかになったため, 他者貢献のできる作業提供や関わりを行うことを基本方針として, ①畑作業, ②広告でのごみ箱作り, ③洗濯物畳み, ④誕生日の色紙作りの介入を行った.

①について, デイサービスの畑にて A 氏と野菜を栽培. 収穫した野菜を昼食で提供すると A 氏は喜び, 周囲が「美味しかった」と感想を言う嬉しそうな様子であった. また, A 氏自ら畑の様子が見たいと職員を誘った. ②について, OT と取り組み, 完成すると「自分にもできた」と驚きと喜びが混じった表情と発言があった. 他利用者も使用する為助かったとお礼を伝えると嬉しそうな表情を見せた. ③について, OT が助かったと伝えると「そうか」と嬉しそうな笑顔を見せた. ④について, 絵を切る作業を依頼した. 終わると満足な様子であった. またやってみたいか問うと「そうだな」と前向きな発言があった.

【結果】

A 氏の価値を満たす作業提供と関わりを実践すると, 前向きな発言や明るい表情が見られた. また, 畑へ職員を誘うなど主体的な行動が見られた. 「自分にもできた」と個人的原因帰属の改善があった.

【考察】

A 氏にとって, 「他者のために」という価値のもと自宅付近の畑の野菜を近所に配り喜んでもらうことが作業同一性を反映する作業であった. 左下肢の慢性疼痛が影響し, 価値ある作業が遂行困難となり役割を喪失したことで個人的原因帰属が低下したと考えた. 病前の身体機能を取り戻すことは困難であるが, A 氏の価値に焦点を当て同じ意味を持つ作業で新たな役割を提供することによって, 個人的原因帰属が改善したと考える.